

# YOU'I だより NO362

H22. 11. 25



小2年生の部  
豊田1位 高橋大樹 785点



小4年生の部  
豊田1位 竹内歩美香 795点



小6年生の部  
豊田1位 梶匠詔 785点



中1年生の部  
豊田1位 河合雅哉 940点



中2年生の部  
豊田1位 湯浅光司 970点



一般の部  
豊田1位 青木龍輔 1000点

参加部門	名前	前豊田順位	賞
小学1年生	梶 航 汰	2位	銀賞
2年生	高 橋 大 樹	1位	金賞
3年生	加 藤 希	2位	金賞
	成 田 将 毅	4位	金賞
4年生	竹 内 歩 美 香	1位	金賞
	小 鹿 允 己	2位	金賞
	光 岡 恭 介	3位	金賞
	覺 前 達 允	4位	金賞
5年生	下 岡 暉	5位	金賞
	北 川 和 佳 奈	2位	金賞
	中 根 華 奈	5位	金賞
	岩 橋 梨 乃	11位	金賞
	村 山 明 陽	16位	金賞

学年	名前	順位	賞
6年生	梶 匠 詔	1位	金賞
	末 藤 萌 々 香	2位	金賞
	小 鹿 文 也	3位	金賞
	木 下 友 誉	3位	金賞
	河 村 季 映	8位	金賞
	馬 場 麟 太 郎	14位	銀賞
	田 中 惠 里 香	16位	銀賞
中学1年生	長 谷 川 匠	22位	銀賞
	河 合 雅 哉	1位	金賞
中学2年生	湯 浅 光 司	1位	金賞
	梶 都 登	2位	銀賞
	下 岡 稔	3位	銀賞
高校生	山 元 亜 里 沙	2位	銀賞
一 般	青 木 龍 輔	1位	金賞
	畠 中 俊 哉	2位	銀賞

## 第134回電卓検定合格者

YOU'I 2代目 満点名人	吉 橋 彩 奈
正速士六段	木 下 友 誉
速士四段	中 村 芳 恵
"	下 岡 暉
正士三段	末 藤 萌 々 香
"	北 川 和 佳 奈
"	馬 場 麟 太 郎
1 級	石 本 彩 華
"	近 藤 礼 奈
2 級	村 山 明 陽
"	平 井 隆 也
3 級	佐 藤 遥 陽

★電卓満点名人!!

吉橋彩奈さん



YOU'I 2人目

全国6人目の電卓満点名人達成!!  
くじけそうに感じた時もあったけど、  
やり通して達成出来て本当に良かった。  
といつも冷静な彩奈さんの涙ぐみに、  
来年はもっとうれしいことが... 楽しみに。

### 11月塾内検定合格者

- 5級 福地美帆  
上田瑞季  
野場万由  
新立奈未  
小池直輝  
深野亮輔  
比リ蓮  
中山 零
- 6級 梶垣寧実  
前田大城  
梶垣水優  
土井愛理  
上原昌大  
入江七海
- 7級 上原宏大
- 8級 中谷柁介  
酒井 泳

### 鬼先生の心

先月号の1級合格者のこと、これはみんなに伝えた方が良かった、って思ったので書きます。  
You'I 437代、井指李咲さんさんと  
お母さんはYou'I 61代(557.10)1級合格  
You'I 438代の小鹿允己くん、ナント  
お父さんがYou'I 34代(455.2)1級合格  
又、允君のお兄さん文也君も You'I 413代  
You'Iの1級合格リストに名を残した。

### 12月～1月のよてい追加

12/6(水) 伊保小学校へそろばんの  
ボランティア授業に、中村先生  
青木先生と午前中行きます。  
You'I 冬休み  
12月25日(土)～1/4(火)まで

### 12月のよてい

- 3日(金) 田中教室  
地方検定、暗算検定
- 4日(土) 竹元教室  
地方検定、暗算検定
- 5日(日) 電卓検定
- 12日(日) 名古屋商業高校珠算大会出場
- 23日(木) 竹元教室 1/5(2)の振替授業  
25日(土) " 授業おやすみ
- 26日(日) さいたま市 クリスマスカッコウ出場
- 28日(火) 兵庫県明石商業高校の生徒さん  
と竹元教室で合同練習



早ね 早起き 朝ごはん!!

# 全国中学生人権作文・愛知県大会入賞作



鬼先生の心

## 鬼先生の心

5人兄弟の4番目 彼女の名前は村山侑陽ちゃん  
あまりにも可愛い姿にパチリ。  
予備のえんぴつを髪にこして真剣にそりばんを  
ほじく侑陽ちゃん教える私も思わず笑顔になる。



鬼先生の心

この日私はとても辛いことがあり落ち込んでいました。  
授業が終る時Mechaお母さんがこんな可愛いフェイス  
ケースを作って持ってきてくれました。鬼のマークはカバンのマークを  
コピーしお父さんがスクーターで取り込んでと私にはとても出来ません。  
辛いことや悲しいこと、苦しいこともあるけれど、うれしいこともあるからガンバレ。

「しっかりとるねえ」  
これは、私がよく言われる言葉。いわゆる褒め言葉である。しかし、以前の私は、この言葉に素直に喜ぶことが、どうしてできなかったか。  
確かに私は、はたから見れば「しっかりとる」のかもしれない。両親は共働きで、幼いころから何でも任せられ、他人の機嫌を損ねないように言うことをよく聞き、わがままも言わない。でもそれは、ただ言いたいことが言えていないだけで、本当の自分とは違う。  
自分の仕事に誇りを持っている母は、昔から忙しい人だった。だから私は、自分がしっかりとるべきかと思っていた。母に心配をかけないように「いい子」でいること。それが子供である自分の義務だと思っていた。だから私には言えなかった。参観日に誰も来なくて寂しい思いをしたことも、仕事の話ばかりする母に、もっと自分を認めてほしいと思っていたことも。

中学生になってしまった。中学に入學して新しくできた友人たちも「えらいね」「しっかりとるね」と私を褒めた。その言葉に私は「そんなことないよ」と首を振る。本当にそんなことないのだから。  
ある日のことだった。一人の友人が私に聞いた。  
「嫌じゃないの？」  
「どういふことかと聞き返すと、友人は答えた。  
「そんなにわがままも、言いたいことも言わずに、何か我慢してるみたいだよ」  
その言葉は私の心に響き、とんと、と音を立てて落ちた。同時に、私の目からは涙がこぼれ落ちていた。私はやっと、自分の本当の気持ちに気づいたのだ。  
その日は、母が帰宅するとすく、母の目をまっすぐ見て伝えた。本当はいつも寂しい思いをしてきたことを。母が仕事のことを話す度に、私のことも見てほしいと思っていたことを。幼いころのように、思いっきり甘えたかったことを。こんなことを言うのはわがままだと思っただけで、心の中にしまい込んでいた数々のこと。それらがどんどん言葉になって、私の口からあふれてきた。  
母は私をぎゅっと抱きしめてくれた。そして一言ささやいた。

「ごめんね。寂しかったね」  
この時、私は生まれて初めて、母と心の底から会話することができたと感じた。  
その日以来、私は思う。子供に「いい子」でいなければならない義務など全くないのだ。「義務」の対義語である「権利」。そう権利こそが私たちに最も大切で、必要なものなのだ。  
では、私たち「子供」の権利とは、一体何だろう。「甘えたい時に甘えていい」「困ったら頼っていい」「頑張り過ぎなくてもいい」。自分の思いを伝えていい。「焦らずに、ゆっくり大人になればいい」。考えればきりがなくいくらたくさんある。  
母はあの時、私の手を強く握って言った。  
「あなたが何も言わないから、逆に不安だった。本当は寂しいんだろなって分かった。でも、いつの間にかそれが当たり前になっちゃって、私もあなた自身も気づかないくらいになっちゃったね」  
そうだ。私も気づいていなかったのだ。友人が気づかせてくれた。友達が気づかせてくれた。友達のままで、こうして権利について考えることもなかっただろうし、自分の思いを伝える喜びも感じることができなかったのだ。

## 中日新聞社賞



竹本 水花さん

小牧市立  
光ヶ丘中3年

## 今を素直に

子供たちだけではない。この世界に生きるすべての人々に権利はある。それを「人権」というのだらう。しかし、そうは思っても、実際に人権とは何かと考えると、頭の中には難しい言葉ばかりが並んでしまう。  
私が私なりに考えた結論はこうだ。以前の私のような子供がいたら？ 自分の思いを言えないような人がいたら？ 私はそうした人たちを心から助けてあげたい。「人権」とはつまり、互いを理解・尊重しながら、自由に思いを伝え合い、自分に素直に生きる権利ではないかと、私は思う。言葉で説明するのは難しいが、実際には簡単なことだ。人々の思いが飛び交い、心そのままの言葉が伝わる。そんな世界になることを願って、私は、今を素直に生きようと思

鬼先生の心 新聞でこの作文を読み私は泣きそうに感じた。遠い昔の私と娘を重ねたのです。そりばんの話ばかりしていた私。今もそうだけど、淋しかったらば、どんたにか。生徒の中でも毎日毎日来てくれているとそれの当り前になりもともとと思ってしまう。どうか私か気が付かない程にがんばり過ぎないでね。

鬼先生の心